

産後過多出血の予後に関わる因の検討に関する研究

2001年から2025年までに産後過多出血のために当院で治療を受けた患者さん

研究協力をお願い

当科では「産後過多出血の予後に関わる因子の検討に関する研究」という研究を行います。この研究は、2001年1月1日より2025年12月31日までに日本医科大学多摩永山病院女性診療科・産科にて、産後過多出血のために当院で治療を受けられた患者さんの予後を調査する研究で、研究目的や研究方法は以下の通りです。直接のご同意はいただかずに、この掲示によるお知らせをもってご同意を頂いたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の主旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。この研究へのご参加を希望されない場合、途中からご参加取りやめを希望される場合、また、研究資料の閲覧・開示、個人情報の取り扱い、その他研究に関するご質問は下記の問い合わせ先へご連絡下さい。

(1) 研究の概要について

研究課題名：産後過多出血の予後に関わる因子の検討に関する研究

研究期間：2001年1月1日～2025年12月31日

研究責任者：日本医科大学多摩永山病院 女性診療科・産科 中井 章人

(2) 研究の意義、目的について

周産期の出血は妊産婦の死亡原因の3割を占めると言われています。周産期の出血に対する適切な管理は大変重要なのですが、搬送のタイミングや治療方法など、どのように対処すればより良い結果が得られるのかという点で、まだ科学的根拠のそろっていない部分が多くあります。そこで、本研究では、分娩時に多量出血をされた方の治療を見直して、出血症例に対処するより良い方法を究明することを目的とします。

(3) 研究の方法について（研究に用いる試料・情報の種類）

2001年1月1日より2025年12月31日までに日本医科大学多摩永山病院女性診療科・産科にて、当院で取り扱い、外来での産褥健診が終了した分娩時の産後過多出血症例を対象とします。出血に対しては、その時に最良と考えられる方法で診療を行います。診療が終了した後に、どのような治療を行い、どのような結果であったかを診療録（カルテ）から調査し、出血症例に対処するより良い方法を究明します。この研究は、患者さんの以下の試料・情報を用いて行われます。

試料：なし

情報：年齢、妊娠分娩歴、母体基礎疾患、不妊治療の有無、妊娠合併症などの母体背景や、分娩様式、出生児体重などの分娩時情報、出血量、産後過多出血の有無、バイタルサイン、輸血量、輸液量、子宮摘出や血管塞栓などの止血方法

(4) 個人情報保護について

研究にあたっては、個人を直接特定できる情報は使用されません。また、研究発表時にも個人情報は使用されません。その他、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（文部科学省・厚生労働省）」および「同・倫理指針ガイダンス」に則り、個人情報の保護に努めます。

(5) 研究成果の公表について

この研究成果は学会発表、学術雑誌などで公表します。

(6) 問い合わせ等の連絡先

日本医科大学多摩永山病院 女性診療科・産科 助教 坂田 明子

〒206-8512 東京都多摩市永山 1 丁目 7-1

電話番号：042-371-2111（代表） 内線：2298

mail: akikoo614@nms.ac.jp